

は機械的となる。

条件付証券の価格の一般論に興味ある読者は Duffie (1988) および Huang and Litzenberger(1989)を参考にされたい。

参 考 文 献

- [1] Black, F., and M. Scholes. 1973. 第 1 回の参考文献[2].
- [2] Cox, J., S. Ross. 1976. 第 1 回の参考文献[7].
- [3] Duffie, D. 1988. *Security markets*, Academic Press, California.
- [4] Dybvig, D., and C. Huang, 1989, Nonnegative Wealth, Absence of Arbitrage and Feasible Consumption Plans, *Review of Financial Studies* 1, 377-401.
- [5] Harrison, M., and D. Kreps. 1979. 第 1 回の参考文献[9]
- [6] Harrison, M., and S. Pliska. 1981. 第 1 回の参考文献[10]
- [7] Huang, C., and R. Litzenberger, 1988, *Foundations for Financial Economics*, North-

Holland, New York.

- [8] Huang, C., and T. Uratani, 1990, 本誌連載 第 1 回
- [9] Huang, C., 1989, *Lecture Notes on Advanced Financial Economics*, Sloan School of Management, Massachusetts Institute of Technology.
- [10] Kunita, H., and S. Watanabe, 1967, On square-integrable martingales, *Nagoya Mathematics Journal* 30 : 209-245.
- [11] Liptser, R., and A. Shirayev, *Statistics of Random Processes I : General Theory*, Springer-Verlag, New York, 1977.
- [12] Merton, R. 1973. 第 1 回の参考文献[19]
- [13] Pagès, H. 1989. Three Essays In Optimal Consumption. Unpublished Ph. D. thesis. Massachusetts Institutes of Technology.
- [14] Samuelson, P., 1965, Rational theory of warrant pricing, *Industrial Management Review* 6 : 13-32.

第25回 SSOR ルポ

第25回に当たる今年のSSORは、8月26日から29日までの4日にわたり、飛騨高山の近くの丹生川村(弁天荘)において開催された。今回のSSORは、はじめ出足が心配されたが、天気にも恵まれ78名の参加者が全国から集い、盛大なものとなった。

第1日目は、午後3時から受付が開始された。参加者が集まるにしたがって、旧交を温める場面や共通の話題について議論する場面などが各所で見られた。夕食後、大野勝久先生(名古屋工業大学)による特別講演が行なわれた。講演は「生産システム事始め—JITへの道」と題して、1) F. W. Taylor の科学的管理法、2) 大量生産を可能にしたフォードシステム、3) 多品種少量生産を実現するジャスト・イン・タイム生産システム、これら3つの生産管理方式の特徴および歴史的意義に関してのものであった。その後、開催された飲み会にはほとんどの人が参加し、深夜遅くまで宴がつづいた。

第2日目は、一般発表が午前9時15分から始まった。2日目の発表は次の7件であった。

- (1) “Parametric Simplex Algorithms for Solving Special Classes of Bilinear Programming Problem” 矢島安敏, 今野 浩 (東京工業大学)
- (2) 「非線形ナップザック問題に対する新グリーディー法」 太田垣博一, 中川勇二 (岡山理科大学)
- (3) 「拡張確率ベトリネットによる強調動作をするシステムの稼働率について」 菅澤喜男, 金群 (日本大学)
- (4) 「調和解析にもとづく待ち行列の解析について—減少をよく表現する解析しやすい特性量を求めて」 下川信祐 (NTT交換システム研究所)
- (5) 「翌日最大電力予測モデルの開発」 小野賢治, 所 健一 (電力中央研究所)
- (6) 「平面方向オイラーグラフにおける weak 4-linking 問題について」 西村茂樹 (京都大学)

(7) 「ディスクのバックアップ政策とシステムの子防保全計画」 三道弘明 (流通科学大学)

この日も天気にも恵まれ、早々に近くのテニスコートで親睦を深めるグループや観光を楽しむグループが見受けられた。全国各地での残暑の厳しさが報じられているにもかかわらず、発表会場となった部屋は、エアコンなしでも涼しく快適であった。そのせいか皆活発に質問し、発表内容について熱心な議論がなされていた。この日午後4時から「金平糖とコンピューター」と題して中田友一先生(中京大学)による特別講演が行なわれた。講演内容は昔ながらのお菓子であるコンペーターができるまでの製造過程を数学的にモデル化し、コンピュータでシミュレーションを行なった結果に関するものであった。この講演のおもしろさは、その数値結果よりも、コンペーターを子供に見立て、その角が発達する様子を子供の才能の発達になぞらえた教育論を唱えられたことである。先生は「コンペーターを守る会」をつくっておられ、バッヂ、ステッカーも参加者に配っておられた。その後、夕食をかねて行なわれた懇親会は、参加大学・企業を紹介する和やかな雰囲気のもとで行なわれ、全体としての交流を深めることができた。ひきつづいて行なわれた飲み会は、某大学女子学生2人組によるカラオケデュエット、アームレスリング、隠し芸等が飛び出し、交流が夜ふけまでつづいた。

第3日目も、一般発表が午前9時15分から始まった。発表は次の9件であった。

- (1) 「多重化によるフェイルセーフ特性の改善」
上田佳宏, 中島恭一 (姫路工業大学)
- (2) 「高信頼性ユニットからなる並一直列の漸近的に最適な保全政策」
前田 洋, 大西匡光, 茨木俊秀 (京都大学)
- (3) 「Hi-Lo ボーカーゲームの最適戦略について」
阪井節子 (福井大学)
- (4) 「Convex Multiplicative Programming and its Generalization」
久野誉人 (東京工業大学)
- (5) 「農業気象情報通信システムの現状と将来」
浅利英吉 (北海道東海大学)
- (6) 「製造業における Sequence Problem の組み立て計画への適用」
宮下 隆, 吉村幹之助 (株式会社小松製作所)
- (7) 「オープン・ショップにおける辞書式スケジューリング問題」
韓尚秀 (神戸大学)
- (8) 「待ち行列網の逆問題とその設計計画への応用」

和田維作, 米田 清 (幹東芝)

(9) 「タイムウィンドウのあるネットワークにおける最短経路についての考察」 宝崎隆祐 (神戸大学)

この日も午後7時半から田中庸平氏(中部電力)による特別講演が行なわれた。内容は、ダム建築の進捗管理におけるORの適用についての内容であった。田中氏は、実際面からみたORの適用についての注意点を特に強調された。その他、余談のように話された(DPを使用した)東京一名古屋間の最も安い切符の購入法は、大変興味深かった。この講演の後は、最後の宴会がいつものように夜更けまでつづいた。

最終日は、午前中の一般発表のみ3件で、午前9時15分から始まった。発表内容は次のとおりであった。

- (1) 「ある信頼性システムに対する修理限界取り替え政策の最適性」
瀬川良之, 大西 匡, 茨木俊秀 (京都大学)
- (2) 「マルコフ決定過程への Replacement Process Method の応用」
中島健一 (名古屋工業大学)
- (3) 「変分不等式と等化な最適化問題について」
田地宏一 (京都大学)

昼食後、自由解散となり皆来年の再会を誓いながら丹生川村(弁天荘)を後にした。

今回舞台となった丹生川村は、飛騨高山など観光・レジャーに最適の地であり、4日もとも天気にも恵まれたこともあって、講演・発表の間にスポーツ、ドライブ、ハイキング等に繰り出し、講演会場内の人数が少なくなることもあったが、質疑応答は非常に活発であり時間的に予定を超過することもしばしばあった。

全体としてSSORを振り返ってみると、今回は企業の発表が少なかったように感じられる(一般発表19件中発表4件(参加15人))。SSORはORに関係する人が1人のOR研究者として集ういいチャンスであるから、学生、企業者問わず、今後ともSSORへの積極的な参加が望まれる。また、SSORにおける発表の雰囲気は、OR学会の研究発表会ほどには格式張らないのびのびしたものがあつた、好感がもてた。

最後にこの場をおかりして、今回の幹事である玉置光司先生(愛知大学)、大鑄史男先生(愛知工業大学)、後藤邦夫先生(南山大学)、中出康一先生(名古屋工業大学)、林秀行氏(名鉄コンピュータサービス)、古川孝氏(中部電力)に参加者を代表して感謝の意を表したいと思います。なお次回のSSORは日本大学が幹事校となつて行なわれる予定である。(記 名古屋工業大学 石垣智徳)